

4. 名古屋の水は海へ

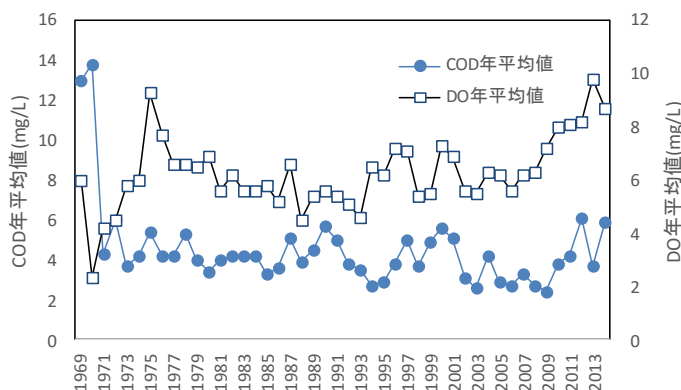
1) 名古屋の水は名古屋港、伊勢湾へ

私たちが使用した水は、下水処理場で処理され、川を經由して、伊勢湾の最奥部に位置する名古屋港にたどり着きます。

名古屋港内は伊勢湾の最奥にあるため水の循環が悪く、市内河川や臨海工業地帯の工場排水が流入するため、水質が悪化しやすい水域です。高度経済成長に伴い、公害問題が深刻化した1960年代の名古屋港の水質は、CODで10mg/Lを超え、DOで3mg/Lを下回る年もみられ、水質の汚濁が進行していました。しかし、その後の排水の水質規制などの制度化によって、1970年頃から水質の改善がみられるようになりました。

現在、名古屋港内のほとんどの水域の水質は環境基準を達成していますが、CODで8mg/L以下、DOで2mg/L以上とハードルの低いものです。

＜図表2-8＞名古屋港の水質の変遷（ガーデン心頭前面）



備考：値は日平均値（表層・中層）の年間平均値

資料：公共用水域及び地下水の水質調査結果（愛知県）および名古屋港管理組合資料、名古屋市統計年鑑、公共用水域及び地下水の常時監視(名古屋市)より作成

⇒【伊勢湾】
「9 伊勢湾流域のなかのなごや」参照

⇒【名古屋港】



⇒【ガーデン心頭前面の位置】



⇒【富栄養化、赤潮】
「9 伊勢湾流域のなかのなごや」p80 参照



水の汚れの程度を表す指標

水の汚れの程度を表すものを水質指標といい、以下のような項目があります。

◆SS（浮遊物質）：

水に溶けないで懸濁している粒子状物質のことで、粘土鉱物に由来する微粒子やプランクトン・工場排水などに由来する有機物などによる水の汚れを表す指標です。

◆BOD（生物化学的酸素要求量）：14 ページ参照

◆COD（化学的酸素要求量）：

BODと同様に水中の有機物による水の汚れの程度を表す指標で、主に河川ではBOD、海域や湖沼ではCODが用いられます。

◆T-N（全窒素）、T-P（全リン）：

水中に存在するいろいろな形態の窒素化合物における窒素の量あるいはリン化合物におけるリンの量を表す指標です。窒素・リンは動植物の生育に必須の元素ですが、過剰な量の窒素、リンが海や湖沼に流入すると**富栄養化**し、**赤潮**の原因となります。